

「変える」

青森県立三本木高等学校附属中学校 二年 泉 香子

「日本にはそんな法があったのか。」
 そう思ったのは、一年生の家庭科の授業でのことです。今まで全く聞いたこともなかった「男女共同参画社会基本法」についての授業でした。これは、家庭生活の責任を男女が共に担っていくという内容です。
 私は、その時、とても衝撃を受けました。それは、私の家庭のことが頭にうかんだけからです。
 私の両親は共働きをしています。職種は同じなので、仕事の労働時間はほぼ同じです。それなのに、家事はほぼ母の仕事となっていて、私の家事が母の仕事の他に、洗濯、炊事、買い物など、毎日たくさんあります。母は仕事をしなから、掃除を少し通だと思わずと過ごしていました。一方、父は、掃除を少しする程度で、他は一切行いません。
 私は今まで女性ばかりが家事をするのだと思っていました。多分、今の日本人の男性の多くはそう思っているのではないのでしょうか。確かに、武士がいた時代、家事の担い手は全て女性だったと思います。しかし、女性も働くようになった今、やはりそれ

はいけません。
 と、また、国際的に見ても、日本は、男性と女性の家事時間の差が、とても激しいからです。カナダなどは、男性、女性に別役割「家事」の意識が根付いているからだと、思います。例えば、「アニメなどで、母は働き、父は寝ているなど」というのがあります。それもここからきていると思います。
 私は父によく

「女なんだから、もっと家事をできるようにならないと。」
 と言われます。確かに、家事ができないと、将来困ってしまします。しかし、本当に女に産まれてきたら、やらなければいけないのでしようか。もし、私が男に産まれてきたら、やらなくてもいいのでしようか。私は、それは間違っていると思います。一人ひとりがやることによつて、よりよい生活になっていくと思うのです。
 そもそも、男性が家事をしなくてもよいのであれば、家庭科の授業は女子生徒だけでもいいはずですよ。男女一緒にやるといいます。家事は生きていくうえで必ず必要となるからではないのです。どうか。
 私の父がそうであるように、やはり、今の日本では男女の差があつて普通と考える人も少なからずいます。ニューズなどでも取り上げられていませんが、男性の育児休業です。私はこれはとても取りな

い取り組みだと思えます。そのような考えがもつとたくさん増えていけば、今の日本は良い方へと動いていくと思えます。

男女共同参画とは、男女平等という文字に置きかえることができます。全ての人が平等ということとは、一人の負担が軽減されず。負担が少なくなるということは余裕もでき、さらにその時間を楽しい時間へとできます。平等に協力してやるというのは私達にとってメリットがたくさんあります。

男女の差異は家事に関わらず、いろいろなところであると思います。育児や地域、職場など家族をこえ、たくさんの人々と関わる場面などです。だからこそ、全ての人が気持ちよく過ごせるために、差異をなくしていく必要があります。そうすることにより、個性や能力を最大限に発揮できる社会ができると思います。

そのために、私は家族の中から変えていこうと思えます。私は祖母、父母、弟、私の計六人暮らしています。今、大抵の仕事の分担は決まっています。計六人暮らしては、母に集中していません。我が家の目標は六人全員がそれぞれ仕事をこなして、支え合えることです。父の家事は六人全員がそれぞれ変わってはいけません。しかし、全員が笑顔で毎日過ごせるようにするには、変えていかなければいけません。

日本人、一億人の全ての人が笑顔で輝ける日が絶対くる。私はそう信じています。